

学校法人 柏 専 学 院

平成23年度事業報告

目 次

第1部 法人の概要	P 1
I. 設置する学校、学部、学科等		
II. 学生数の状況		
III. 役員、教職員の概要		
IV. 理事会開催状況		
第2部 事業の概要	P 3
I. 新潟産業大学		
1. 教育		P 3
2. 学生への支援		P 4
3. 留学生支援		P 6
4. 学生募集及び入学試験		P 9
5. 地域貢献・生涯学習		P10
6. 国際交流		P14
7. 附属図書館		P15
8. 附属研究所		P15
9. 施設開放		P16
10. スタッフ・ディベロップメント		P17
11. その他		P18
II. 新潟産業大学 大学院 経済学研究科		P19
III. 新潟産業大学 附属高等学校		P20
1. 「教育等の事業」の概要		
2. 今年度の実績		
3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ		
4. 生徒募集		
5. 新規取組事項		
第3部 財務の概要	P27

第 1 部 法人の概要

I. 設置する学校、学部、学科等

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	開設年度	備考
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	昭和 6 3 年度	入学定員 9 0 名
		文化経済学科	平成 2 1 年度	入学定員 7 0 名
		国際コミュニケーション ビジネス学科	平成 1 8 年度	※平成 21 年度募集停止
	産業システム学部	産業学科	平成 1 8 年度	※平成 21 年度募集停止
	大学院 経済学研究科	経済分析・ビジ ネス専攻	平成 1 6 年度	入学定員 1 0 名 ※修士課程
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		昭和 3 3 年度	入学定員 1 6 0 名

II. 学生数の状況

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	学年	学生数	
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	1 年	7 6	3 6 6
			2 年	9 7	
			3 年	8 9	
			4 年	1 0 4	
		文化経済学科	1 年	3 6	1 3 6
			2 年	5 2	
			3 年	4 8	
			4 年	—	
		国際コミュニケーション ビジネス学科	1 年	—	4 1
			2 年	—	
			3 年	—	
			4 年	4 1	
	産業システム学部	産業学科	1 年	—	9
			2 年	—	
			3 年	—	
4 年			9		
		合計(大学)	5 5 2		
大学院	経済学研究科	1 年	5	1 6	
		2 年	1 1		
		合計(大学院)	1 6		
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科	1 年	1 2 5	3 5 8	
		2 年	1 3 0		
		3 年	1 0 3		
		合計(高校)	3 5 8		
総 計			9 2 6		

Ⅲ. 役員、教職員の概要

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

役員等	現員						
	理事	監事	合計	評議員			
	1 1	2	1 3	2 4			
教員・教諭	大学				高校		
	専任				非常勤	専任	非常勤
	大学院	経済学部	産業システム学部	合計			
	—	3 2	1	3 3	4 6	2 6	1 0
職員	大学				高校		
	専任	嘱託	臨時		専任	嘱託	臨時
	2 9	2	3		3	1	—

Ⅳ. 理事会開催状況

回数	開催日	理事定数 8～11 名 (現員 11 名) 監事定数 2 名 (現員 2 名)		議題、報告事項
		出席理事	出席監事	
第 1 回	H23.5.30	1 0 名	2 名	議題 1. 平成 22 事業報告 2. 平成 22 年度決算 3. 平成 23 年度当初予算 4. 評議員の選任 報告 1. 資金運用 2. 監事の指摘事項
第 2 回	H23.5.30	1 0 名	2 名	議題 1. 平成 23 年度当初予算 報告 1. 資金運用
第 3 回	H23.9.13	1 1 名	2 名	議題 1. 平成 23 年度第 1 回補正予算 報告 1. 柏崎市立教育センターの本学への移転
第 4 回	H23.9.13	1 1 名	2 名	議題 1. 平成 23 年度第 1 回補正予算
第 5 回	H24.3.23	1 1 名	2 名	議題 1. 平成 24 年度事業計画 2. 平成 23 年度 第 2 回補正予算 3. 平成 24 年度当初予 算 4. 寄附行為変更 5. 柏崎市立教育セン ターの移転契約 6. 人事 (大学・高校) 7. 理事、監事、評議員選任 8. 資金運用管 理方針 9. 規程改正
第 6 回	H24.3.23	1 1 名	1 名	議題 1. 平成 24 年度事業計画 2. 平成 23 年度 第 2 回補正予算 3. 平成 24 年度当初予 算 4. 寄附行為変更 5. 資金運用管理方針 6. 規程改正 報告 1. 平成 24 年度入試状況 (大学・高校) 2. 平成 23 年度卒業生就職・進路状況 (大学・ 高校)

第2部 事業の概要

I. 新潟産業大学

1. 教育

事業項目	平成23年度実施内容
(1) 教育環境の整備と質の確保	<p>①現行カリキュラム等の整備</p> <p>ア.「キャリアデザインⅢ」(3年次配当)を設置し、入学時から就職活動開始時までのキャリア教育の順次性を高めた。(2. 学生支援の(3)就職支援に内容記載。)</p> <p>イ. 教職課程科目をバランス良く履修できるように、科目の配当年次を見直し、「教育原論」と「道德教育論」を2年次配当から1年次配当へ変更した。</p> <p>ウ. 博物館法施行規則の一部を改正する省令の平成24年4月1日施行に向け、学芸員課程において必要な科目整備を行った。</p> <p>②平日夜間及び土曜授業開講の検討</p> <p>働きながら学ぶ社会人学生の教育環境整備を目的に、平日夜間及び土曜日の授業を平成24年度春学期から実施することを決定し、授業時間表を編成し直した。</p> <p>③平成25年度教育課程改定に向けての検討</p> <p>「カリキュラム委員会(委員長:経済学部長)」を組織し、平成25年度入学生からの新教育課程の改定編成を行い、原案を作成した。</p> <p><改定編成の方針></p> <p>○1学部2学科のコンパクト・ユニバーシティに適したコンパクト・カリキュラムの編成。</p> <p>○教育理念、教育目標、ミッションと整合した編成。特に、ミッションを遂行する上で、キャリア教育とリメディアル教育を重視した編成。</p> <p>④教務システム更新に伴う周辺システムの整備</p> <p>履修登録・学籍情報等管理システムの更新を行った。</p> <p>加えて、Web学生履修登録・授業出欠管理・シラバス編集を試行した。</p> <p>⑤プロジェクター設置教室の増設</p> <p>IT教材を活用する授業の増加に伴い、新たに2教室にプロジェクターを設置した。</p>
(2) 授業改善の推進	<p>①学生による授業改善アンケートと教員の顕彰</p> <p>春学期と秋学期に2回実施した。アンケート評価の低い授業に対しては改善計画書の作成を義務付け、これを学内掲示した。また、高評価の授業については、新たに「学生が選ぶベスト授業」として、専任教員5人、非常勤教員1人の表彰を行った。</p> <p>②教員による相互授業見学</p> <p>FD委員会が、見学授業を指定し全教員に指定授業の見学と見学後の「見学レポート」提出を義務付けた。また、「見学レポート」に対しては、授業担当教員から回答を提出させた。加えて、全教員がこれらの情報を共有し、個々の授業改善に繋がれようように、この情報すべてを全教員に開示した。</p> <p>②FD講演会の開催</p> <p>第1回</p> <p>開催日:平成23年6月29日 17:00~18:30</p>

	<p>講 師：本学非常勤講師 佐々木晃彦 氏 テーマ：『文化経済学とその教育』 参加数：25人</p> <p>第2回 開催日：平成23年10月5日 16:30~18:00 講 師：本学専任教授 金光林 テーマ：『ハーバードとUCLAの授業風景』 参加数：17人</p> <p>第3回 開催日：平成24年3月5日 17:00~17:50 講 師：本学専任講師 平野実良 テーマ：『高等教育機関におけるICTを利用した教育』 参加数：22人</p>
(3)高大連携事業の改善	<p>平成22年度に締結した「新潟産業大学と新潟産業大学附属高等学校との連携教育に関する協定書」にもとづき、附属高校からの科目等履修生の受入れに関する覚書を平成23年度締結した。</p> <p>これにより、本学の「中国語IA」と「日本語IC」の授業科目を履修し成績評価で合格した附属高校生は、附属高校の正課授業であるステップアップ科目の単位とともに本学の当該授業科目の単位が修得できるようになった。</p> <p>(参考) この単位認定の取組みの他、高校生の進路選択等キャリアに関する年間を通じたステップアップ科目を含めて、附属高校と本学との連携教育を「ブリッジプログラム」と呼んでいる。</p>

2. 学生への支援

事業項目	平成23年度実施内容
(1)学生行事・学生活動	<p>①学園祭など、学生主催行事に対する支援</p> <p>ア. 週1回の学友会・学生行事実行委員会ミーティング時に、学生課職員が同席し、学生行事に対する指導助言を行った。</p> <p>イ. 学園祭の企画立案について、新規企画や集客を図るための方策、広告・協賛金依頼方法など指導を行った。</p> <p>ウ. 学生企画の「産大カップ（春・秋開催）」に助言を行った。 春学期：「ミニ運動会」（6チーム参加） 秋学期：「バスケットボール大会」（8チーム参加）</p> <p>②公認部・サークル活動の活性化</p> <p>学生加入率：平成22年度47%→平成23年度67% 拡大。</p> <p>ア. 新入生学外合宿研修において、先輩部員によるサークルの紹介を促すとともに、学生課にて新入生に対し「課外活動見学会の希望調査」を実施し、新入生に部・サークル加入を働きかけた。</p> <p>イ. 新年度ガイダンス及び1年次必修科目「基礎ゼミナール」の授業前後に、部活動・サークル活動の大切さを説明した。</p> <p>③「学生相談」態勢の充実</p> <p>ア. 学生課医務室職員（看護師・初級カウンセラー）が、健康相談及びメンタルヘルスの対応を行った。</p> <p>イ. 学校医（精神科医師）と専門医（心身医療科医師）によるカウンセリングを毎月4回実施した。</p> <p>ウ. ゼミ担任とCLA（事務職員キャンパスライフアドバイザー）協働で学生生活個別面談を実施した。</p> <p>エ. 全教員によるオフィスアワーを実施した。</p>

	オ.「学生意見箱」により、学生からの意見・要望収集を行った。投書された意見に対しては学生課掲示板に回答を掲示した。																																		
(2)経済的支援 ※外国人留学生については3. 留学生支援において報告。	<p>①経済的理由により修学困難な学生の授業料を軽減した。 ②人物・学業成績優秀な学生の授業料を軽減した。 ③スポーツ・文化活動で活躍する学生の授業料を軽減した。</p> <p>【表】学年別学費軽減者数 (人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>1年生</th> <th>2年生</th> <th>3年生</th> <th>4年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">①経済的理由</td> <td>授業料半額減免</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>授業料全額免除(4年間)</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②学業成績優秀者</td> <td>授業料半額減免</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>授業料全額免除(4年間)</td> <td>3</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③スポーツ・文化活動</td> <td>授業料半額減免</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：③の授業料全額免除特待制度は、平成23年度から実施。</p> <p>④大学契約で借上げすることにより安価となる市内アパートへ学生を入居させ、経済的負担軽減を行った。</p>			1年生	2年生	3年生	4年生	①経済的理由	授業料半額減免	2	5	1	7	授業料全額免除(4年間)	1	2	0	2	②学業成績優秀者	授業料半額減免	5	7	6	6	授業料全額免除(4年間)	3	—	—	—	③スポーツ・文化活動	授業料半額減免	12	8	6	2
		1年生	2年生	3年生	4年生																														
①経済的理由	授業料半額減免	2	5	1	7																														
	授業料全額免除(4年間)	1	2	0	2																														
②学業成績優秀者	授業料半額減免	5	7	6	6																														
	授業料全額免除(4年間)	3	—	—	—																														
③スポーツ・文化活動	授業料半額減免	12	8	6	2																														
	(3)学外団体との連携	<p>①スポーツ競技団体や文化団体と連携 水球部、卓球部、ライフセービング部、バスケットボール部、伝統芸能文化部、写真部、茶道部が、地域の団体や高校等と合同練習や活動を実施した。</p> <p>②地域のボランティア活動等諸団体との連携 各種団体からの学生に対するボランティア活動の依頼に対し、学生課が窓口となり、ポスター掲示等、学生周知を行った。また、校友会・学生行事实行委員会や青年赤十字奉仕団が、柏崎地域でのボランティア行事に参加した。</p> <p>③校友会、父母の会との連携 ・父母の会総会時に、学生の修学の状況等を保護者に報告した。また、就職情報企業から講師を招き、保護者に対し就職に関する情報提供を行った。総会后、保護者と教職員の懇親会を開催した。その他、父母の会各支部総会に教員を派遣した。 ・校友会支部総会等で、留学生が出身国の伝統芸能を披露した。</p> <p>④新潟工科大学との交流 両大学の学園祭に、お互いの校友会メンバーを招いた。また、恒例となっている市民有志による新入生合同歓迎会では、両大学の校友会メンバーがスタッフとなり、新入生に対する市内マップの作製や当日のアトラクションの企画・運営、市内バスツアーのガイドを担当した。</p>																																	
(4)就職支援	<p>①キャリアカウンセラー有資格者の配置 平成23年度は従来の専門カウンセラー2人に加えハローワークジョブサポーター1人の協力を得て3人体制へと強化を図った。これにより、学生の利用者数は延べ274人となり、平成22年度の220人を大幅に上回った。カウンセリング利用者に対するアンケートでは「大変役立つ」と「ある程度役立つ」を合わせると満足度は100%に達した。</p> <p>②卒業生の在職、転・退職情報の収集(就職GP) 委託した業者が卒業生在籍企業約300社を訪問し、卒業生の在籍状況や現在学生の就職活動状況等のアンケート調査を行った。また、情報</p>																																		

	<p>の集計結果に基づいた本学学士力の検証をおこない、教育課程やキャリア支援体制の改善に活用した。</p> <p>③キャリア教育の充実 従来実施してきた就職合宿研修会、学内合同企業説明会を、一部に取り入れた授業科目「キャリアデザインⅢ（3年次配当）」をカリキュラムに配置した。これにより、従来のキャリアデザインⅠ（1年次配当）・キャリアデザインⅡ（2年次配当）と合わせ1年次（初年度）～3年次（就職活動期）までのキャリア教育の体系化が進んだ。</p> <p>④就職ニュースの発行 4年生向けに求人情報や合同企業説明会情報、個別会社説明会情報等を掲載した就職ニュースを適宜発行した。</p> <p>⑤就職メールマガジン発信等の検討 学年に適時な情報発信を検討した結果、就職セミナーやガイダンス情報、今実行すべきことなど、学年に応じた情報をタイムリーにメール配信した。</p> <p>⑥就職課ノートパソコンの活用（就職GP） ノートパソコン40台を就職ナビルーム・プレゼンテーションルームに配置し、Webを利用した就職支援環境の充実を図った。これにより年間延べ221人の学生が就職情報収集に活用できた。また、この環境を利用した登録ガイダンスの実施により4年生就職希望者の本学求人システム登録率100%を達成することができた。また、コンピュータを設置したコミュニケーションルームは2年次必修科目プレゼミナールのプレゼンテーション演習指導にも活用した。</p>
<p>(5)資格検定等支援 ～学生の付加価値づくり～</p>	<p>①経営学検定講座 受講者31人 ②経済学検定講座 受講者8人 ③証券外務員2種講座 受講者2人 ④ファイナンシャルプランナー講座3級 受講者1人 ⑤ビジネス実務法務検定講座3級 受講者5人 ⑥宅建主任者講座 受講者1人 ⑦マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト Expert 講座（8月、9月、3月） 受講者延べ21人 ⑧中国語検定（14人受験）、ハングル検定（4人受験）、漢字検定（20人受験）を会場校として開催 ⑨訪問介護員養成研修2級課程（2月～3月）受講者12人。 ⑩春学期日常公務員講座（4月～6月）受講者46人。 ⑪夏期公務員特別講座（9月）受講者16人。（就職GP） ⑫春期公務員特別講座（3月）受講者22人。（就職GP） ⑬TOEIC講座（9月～2月）受講者16人。（就職GP） ⑭福祉住環境コーディネーター3級講座 受講者11人</p>

3. 留学生支援

事業項目	平成23年度実施内容
<p>(1)学習・生活支援</p>	<p>①学生チューターによる生活・学習指導 チューターのミーティングを週1回実施し、留学生との交流活動の計画、留学生のための生活・学習指導の実施方法について検討した。また、自炊ができない留学生のために調理実習を行った。</p> <p>②教職員による生活・学習相談 ・1年次の「基礎ゼミナール」、2年次の「プレゼミナール」において、</p>

	<p>担任教員とCLA（キャンパスライフアドバイザー）が留学生の個別面談を実施する中で、生活面と学習面の指導を行った。また、ゼミナール担当教員、学生課職員等が留学生の相談窓口となって、個別相談に応じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生寮（大学借上げアパートを含む）に入居している学生には、寮毎に集会を開き、ゴミの分別や寮の規則に関して周知した。 ・授業科目「大学生活と危機管理」において、専任教員が大学生活におけるトラブルの回避、自然災害への対処法などを指導した。また、その授業時間の一部を、医務室看護師が健康管理について指導した。 <p>③留学生ガイダンスでの生活指導 年2回、学期始めに全留学生を対象とする留学生ガイダンスを開いた。また、1月には卒業予定者へのガイダンスを実施し生活上の注意や在留関係の指導を行った。</p> <p>④国際センターによる日本語補習授業 日本語能力不足の一部留学生に対し、日本語補習授業を実施した。 春学期：4月11日～7月22日、2クラス週6コマ、25人受講。 秋学期：9月21日～11月11日、週3コマ、2人受講。</p> <p>⑤国際センターによる日本語能力試験対策講座 春学期：4月18日～6月29日、週5コマ実施、23人受講。 秋学期：9月27日～12月1日、週6コマ実施、13人受講。 日本語能力試験のN1に1人、N2に4人が合格した。</p>
(2)経済的支援	<p>①私費外国人留学生授業料減免を実施 留年者を除く私費外国人留学生全員に対し、授業料を一律40%減免した。ただし、著しく成績不振の留学生5人は、秋学期のみ授業料20%減免とした。</p> <p>②私費外国人留学生への学習支援金の給付 2、3年生で、他の奨学金を受給していない留学生を対象とし、申請のあった留学生のうち成績優秀者（評価係数により審査）上位19人に対して、学習支援金として各80,000円を給付した。</p> <p>③新入学留学生全員に住居費補助及び通学費等補助の給付 日本での学習及び生活に円滑に移行できるようにするため、1年生全員に住居費補助（月額10,000円、年間120,000円）、通学費等補助（45,000円）を給付した。</p> <p>④留学生向け宿舎の確保 留学生寮（女子寮1棟、男女寮2棟）の他に、アパート（日本人学生、留学生とも入居可）2棟13部屋を大学が借上げ、家賃の一部を大学が負担し宿舎を確保した。</p> <p>⑤資格外活動の法令順守指導およびアルバイト求人確保 ・資格外活動について法令順守指導をガイダンスや掲示にて行った。 ・12月、大口アルバイト先の事業縮小によりアルバイトが無くなった留学生に対し、3社28人の求人を開拓確保した。</p>

(3)各種交流支援

①日本人学生と留学生との交流行事

新入留学生歓迎会、料理教室、ソフトバレーボール大会、ボウリング大会、クリスマスパーティを開催し、日本人学生と留学生との交流の機会とした。

②地域社会及び地域の小中学校での国際交流

小中学校における総合学習授業や文化活動団体の行事などに積極的に参加し、母国の文化紹介や相互交流を行った。

【表】 地域における国際交流の実績

期日	派遣先	内容	人数
6月1日	長岡 出版を祝う会	文化発表	2人
7月1日	西山中学校3年生	国際理解授業	2人
7月27日	柏崎地域国際化協会	地球市民キッズ・サマースクール	2人
8月11日	柏崎地域国際化協会	かしわざき夏の学校(多文化家族学習支援)	3人
9月17日	高田コミセン	地域の方との交流ハイキング	8人
10月9日	比角コミュニティ運営協議会	比角ストリートフェスティバル(文化発表)	3人
10月6日	北条コミセン	コミセン祭り(文化発表)	3人
10月16日	くびきスポーツクラブ	くびきスポーツフェスティバル(文化発表)	3人
10月22日	NPO日本朗読人協会	全国朗読大会新潟公演(母国詩の朗読)	3人
10月16・28日、11月1日	MOA美術館柏崎児童作品展実行委員会	MOA美術館柏崎児童作品展ボランティア	6人
10月31日	高田コミセン	コミセン祭り(風土市出店)	10人
11月26日	刈羽小学校全学年	国際セミナー	6人
11月27日	片貝町一之町二区町内会	一之町二区町民のつどい「私の国と日本について」講演、文化発表	3人
11月30日	柏崎特別支援学校高等部	演奏ボランティア	3人
1月23日	はまなす特別支援学校高等部	国際交流(韓国文化発表、交流)	3人
2月22日	柏崎小学校6年生	国際理解授業	6人

4. 学生募集及び入学試験

事業項目	平成 23 年度実施内容
(1)学生募集広報の見直し	<p>①オープンキャンパスの開催時期・回数の見直し 平成23年度は8月に2回、9月に1回開催するとともに、5月、6月、7月と3月に2時間程度のキャンパス見学会を開催し、参加の機会を増やした。初めて実施したキャンパス見学会の参加者は、毎回少数ではあったが、保護者の参加や入学に繋がった生徒もいて、一定の成果を上げた。 オープンキャンパスは、1回目、2回目を夏休みの8月に集中開催することで、前年の6月、8月開催より高校生参加者数が21%増となり効果があったが、9月開催の3回目は参加者が極端に減少し、前年比63%減となった。また、2年生の参加者が2.7倍増加したが、3年生の参加者が23%減少した。</p> <p>②学費軽減制度の周知徹底 経済的就学困難者を支援する制度の申請者は減少したが、本学への進学者を増加させるためには有効な制度である。特に新潟産業大学附属高等学校からの入学者に対象となる学生が多く、複数の保護者・生徒から経済的負担について相談があった。入学時だけでなく、在学中も継続可能であることを説明した。 また、東日本大震災被災者向けの学費軽減制度周知のため、合同チラシへの参画や、東北での資料頒布会に参画した。志願者はいなかったが、県内高校にも被災し避難してきた生徒がいるので、引き続き周知を図りたい。 更に、社会人入学者獲得のために、シニア学生学費軽減制度を改正し対象年齢を50歳以上から40歳以上に引下げた。制度改正と社会人教育を広報するため、柏崎市議会での説明会及び電話での個別勧誘等を行い社会人学生入学に繋がった。</p> <p>③進学広報媒体の見直し ターゲットを絞って本学の情報を提供すべく、1月に高校生の聴取者が多いFMラジオ番組でCMを放送した。</p> <p>④高校訪問の強化 新潟県の高校を中心に本学の情報提供及び高校の情報収集に努めた。高校の現況を理解することはできたが、受験者を増やすことはできなかった。収集した情報を学内で共有し、今後の対策の検討を行う。この他、水球部、卓球部、バスケットボール部、ゴルフ部の顧問が、県内外高校や各種大会に出向き教員や生徒に説明を行い入学に繋がった。</p>
(2)特待生入試制度の見直し・改善	<p>特待制度の基準変更及び新設 ア. スポーツ推薦入試にゴルフとバスケットボールを追加し、特待制度Cの対象種目とした結果、ゴルフ部で入学に繋がった。 イ. 資格特待制度を新設し、実学志向の志願者増を図ったが、同制度による入学者はいなかった。しかし、商業高校等で該当資格を持つ生徒は多く、2年目にあたる次年度更に周知することとした。</p>
(3)外国人留学生募集	<p>新たな留学生の受け入れ先の開拓 ・水球の韓国代表選手2人が入学した。並行して、インドネシアとニュージーランドからの留学生受入にも着手した。 ・中国については、内蒙古自治区においても新たな指定校開拓のために高校訪問を実施した。また、柏崎市内在住中国人の協力紹介も得られた。 ・国内留学生入試については、日本語学校訪問により少数ではあるが入学に繋げることができた。</p>

(4)入試方法の見直し・改善	<p>①入試区分別募集人数の見直し スポーツ推薦入試及び海外指定校入試の区分に、入学実態に合わせ募集人数を明記した。</p> <p>②AO入試の出願期の明確化 従来は1期と2期に分け、2期は随時募集としていたが、これを3期に分け最終面接日や出願期間、合格発表日を明確にすることによって、受験生にとって分かり易く志願しやすい体制を整えた。</p> <p>③特待制度対応試験における特待生採用基準 特待制度A・Bについて、対象得点の緩和または採用人数制限の撤廃を行った。新たな基準適用による特待生はいなかったが、新基準適用2年目となる次年度更に周知することとした。</p>
----------------	--

5. 地域貢献・生涯学習

事業項目	平成 23 年度実施内容																																																																														
(1)生涯学習センター事業	<p>①近隣地域講座実施 現在行っている上越地区に加え、新規に十日町地区等においても公開講座を実施し地域拡大を図った。また柏崎市主催の公開講座やJCV(上越ケーブルビジョン)主催の公開講座プログラムへも教員を派遣した。</p> <p>・公開講座(十日町)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>講座名</th> <th>講師名</th> <th>受講者数</th> <th>期間</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>映画にみる水の都「ヴェネツィア」の風景</td> <td>梅比良 眞史</td> <td>2</td> <td>9/29～10/20 (不開講)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>エネルギーを考える</td> <td>藤井 信行 シャハリアル アハド 小出 瑞康</td> <td>13</td> <td>10/4～10/19</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>経済学による処方箋</td> <td>阿部 雅明</td> <td>13</td> <td>10/11～10/25</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>災害対処の文化史(十日町)</td> <td>小林 健彦</td> <td>15</td> <td>10/12～10/26</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>もしドラから地域を考える</td> <td>渡邊 孝一郎</td> <td>10</td> <td>10/13～10/27</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>英語にマルチビタミン注入!</td> <td>星野 三喜夫</td> <td>19</td> <td>10/27～11/17</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>韓国を読み解くキーワード</td> <td>蓮池 薫 伊東 真美 金 光林</td> <td>52</td> <td>11/1～11/15</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>受講者計</td> <td>124</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・公開講座(上越・長岡)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>講座名</th> <th>講師名</th> <th>受講者数</th> <th>期間</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>韓半島と越国の関係(上越)</td> <td>小林 健彦</td> <td>25</td> <td>7/9～7/23</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>災害対処の文化史(長岡)</td> <td>小林 健彦</td> <td>6</td> <td>11/12～11/26</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>受講者計</td> <td>31</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・上越ケーブルビジョン及びかしわざき市民大学</p>	No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数	1	映画にみる水の都「ヴェネツィア」の風景	梅比良 眞史	2	9/29～10/20 (不開講)	4	2	エネルギーを考える	藤井 信行 シャハリアル アハド 小出 瑞康	13	10/4～10/19	3	3	経済学による処方箋	阿部 雅明	13	10/11～10/25	3	4	災害対処の文化史(十日町)	小林 健彦	15	10/12～10/26	3	5	もしドラから地域を考える	渡邊 孝一郎	10	10/13～10/27	3	6	英語にマルチビタミン注入!	星野 三喜夫	19	10/27～11/17	3	7	韓国を読み解くキーワード	蓮池 薫 伊東 真美 金 光林	52	11/1～11/15	3			受講者計	124			No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数	1	韓半島と越国の関係(上越)	小林 健彦	25	7/9～7/23	3	2	災害対処の文化史(長岡)	小林 健彦	6	11/12～11/26	3			受講者計	31		
No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数																																																																										
1	映画にみる水の都「ヴェネツィア」の風景	梅比良 眞史	2	9/29～10/20 (不開講)	4																																																																										
2	エネルギーを考える	藤井 信行 シャハリアル アハド 小出 瑞康	13	10/4～10/19	3																																																																										
3	経済学による処方箋	阿部 雅明	13	10/11～10/25	3																																																																										
4	災害対処の文化史(十日町)	小林 健彦	15	10/12～10/26	3																																																																										
5	もしドラから地域を考える	渡邊 孝一郎	10	10/13～10/27	3																																																																										
6	英語にマルチビタミン注入!	星野 三喜夫	19	10/27～11/17	3																																																																										
7	韓国を読み解くキーワード	蓮池 薫 伊東 真美 金 光林	52	11/1～11/15	3																																																																										
		受講者計	124																																																																												
No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数																																																																										
1	韓半島と越国の関係(上越)	小林 健彦	25	7/9～7/23	3																																																																										
2	災害対処の文化史(長岡)	小林 健彦	6	11/12～11/26	3																																																																										
		受講者計	31																																																																												

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	日本美術史講座(市民大学)	片岡 直樹	63	6/2～6/30	4
2	韓国文化講座(市民大学)	伊東 真美	12	6/17～7/8	4
3	米オバマ大統領就任演説を聴く(市民大学)	星野 三喜夫	11	7/7～8/4	4
4	“こころ”も“からだ”もスッキリ健康(市民大学)	広川俊男(他)	27	9/8～10/6	4
5	映画と小説の不思議な関係(市民大学)	梅比良 真史	9	9/27～10/18	4
6	仏像の歴史・種類①(上越ケーブルビジョン)	片岡 直樹	80	5/12	2
7	仏像の種類②・③(上越ケーブルビジョン)	片岡 直樹	80	5/19	2
		受講者計	282		

②一般教養＝市民向け文化的講座の開講

公開講座（柏崎地域は8講座）及び聴講講座を開講した。聴講講座（春）は34講座を開放し、17講座に聴講生が、聴講講座（秋）は30講座を開放し、17講座に聴講生が参加した。参加者数は下表のとおり。

・公開講座（柏崎）

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	リスニング力を極める英語教室	星野 三喜夫	10	5/9～6/6	5
2	楽しい中国語 10 回講座	詹 秀娟	16	5/24～8/9	10
3	エクセルによる統計データの統計分析	橋本 次郎	5	6/3～6/24	4
4	エネルギーと環境問題	藤井 信行	16	9/17～10/1	3
5	カラー画像と視覚	古川 泰男	5	10/8～10/15	2
6	韓国ドラマで学ぶ会話表現	蓮池 薫	31	10/12～11/9	4
7	簡単にできる韓国料理	若月 順美江	20	10/15～10/22	2
8	エクセルによるアンケート調査の統計処理	橋本 次郎	13	11/11～12/2	4
		受講者計	116		

・聴講講座（春）

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	男女共同参画社会論	梅澤 精	1	4/15～7/29	15
2	中国語ⅠA	詹 秀娟	3	4/12～7/26	15
3	英語演習Ⅰ	黒川 敬三	2	4/12～7/26	15
4	英語ⅡA	樋口 正昭	4	4/13～7/27	15
5	地方財政論	齋藤 忠雄	2	4/13～7/27	15
6	中国語ⅡA	詹 秀娟	1	4/13～7/27	15

7	ビジネスモデルデザイン	五味 由紀子	1	4/15~7/29	15
8	ヨーロッパ文化史	梅比良 眞史	1	4/15~7/29	15
9	韓国経済論	権 五景	5	4/15~7/29	15
10	民法 A	山崎 修	2	4/11~7/25	15
11	韓国語演習 I	蓮池 薫	2	4/12~7/26	15
12	中国語演習 I	詹 秀娟	2	4/12~7/26	15
13	ファイナンシャル プランニング	広川 雅巳 小森 卓	2	4/13~7/27	15
14	韓国語会話A	蓮池 薫	2	4/13~7/27	15
15	中国語会話A	詹 秀娟	2	4/14~7/28	15
16	日本の芸術	片岡 直樹	1	4/22~7/29	14
17	韓国語 I A	蓮池 薫	1	4/12~7/26	15
		受講者計	34		

・聴講講座（秋）

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	東洋史	金光林	5	9/26~1/23	15
2	物流管理論	菊地 慎二	1	9/23~1/20	15
3	英語 II B	樋口 正昭	3	9/21~1/18	15
4	英語演習 II	黒川 敬三	2	9/27~1/17	15
5	中国語 I B	詹 秀娟	1	9/27~1/17	15
6	中国語 II B	詹 秀娟	1	9/21~1/18	15
7	地域振興論	渡邊 孝一郎	1	9/22~1/12	15
8	韓国語 II B	蓮池 薫	1	9/21~1/18	15
9	韓国語演習 II	蓮池 薫	6	9/27~1/17	15
10	中国語会話 B	詹 秀娟	1	9/22~1/12	15
11	観光経営論	佐々木 晃彦	2	9/21~1/18	15
12	東アジア文化交流史	金光林	2	9/27~1/17	15
13	起業論	権 五景	1	9/23~1/20	15
14	中国語演習 II	詹 秀娟	2	9/27~1/17	15
15	韓国語会話 B	金光林	2	9/21~1/18	15
16	欧米文化論	梅比良 眞史	1	9/22~1/12	15
17	民法 B	山崎 修	1	9/26~1/23	15
		受講者計	33		

③友の会会員数の確保

柏崎・刈羽以外の地域に対し、公開講座でのチラシ配布等により「友の会（新潟産業大学生涯学習センター支援組織）」会員の拡大を図った。平成24年3月末時点で会員数は25人。
会員数確保のため、カラー印刷物によるDM配布や市報・民間情報紙への掲載を実施した。また、平成24年3月27日に大学キャンパスにて毎年恒例の『友の会懇親会』を開催した。

(2)青少年国際経済人育成事業（新潟県ロータリークラブ寄付金原資）

①詩の朗読会「ことばのひびきⅧ」

「ことばのひびきⅧ」を2月11日（土）に柏崎エネルギーホールで開催し、地元高校生18人、本学学生8人（内留学生3人）。市内ALT1人が詩の朗読発表を行った。朗読された詩は、日本語以外に英語・中国語・チベット語・モンゴル語、韓国語の6言語に及んだ。また、朗読会終了後には、内モンゴル自治区出身留学生による民族舞踊と馬頭琴の演奏が披露された。当日は出演者と入場者を合わせて約100人の来場者があった。また、上記朗読会に向けて、2月4日（土）に柏崎エネルギーホールにて、出演者による事前リハーサル（発声練習含む）を実施した。

②「地球くらぶ」（国際教養体験講座）イベントを開催

1) オープンキャンパス文化交流として、8月6日（土）に本学オープンキ

	<p>キャンパスに参加した高校生が留学生の出身国の民族衣装を試着し、記念撮影を撮るイベントを実施した。高校生20人が、中国や韓国、モンゴルの民族衣装を着て、留学生との交流のひと時を過ごした。</p> <p>2) 枇杷島児童クラブ 日時：8月8日（月）9：00～12：00 場所：枇杷島児童クラブ 参加人数：36人（児童） 内容：児童に留学生が韓国・モンゴル・チベット・中国の文化を紹介</p> <p>3) 日吉児童クラブ 日時：8月11日（木）13：00～15：00 場所：日吉児童クラブ 参加人数：35人（児童） 内容：児童に留学生が韓国・モンゴル・チベット・中国の文化を紹介</p> <p>4) 紅葉祭（学園祭）地球くらぶ文化祭 日時：11月6日（日）10：00～15：00 場所：学生ラウンジ 参加人数：80人（小学生～高校生） 内容：来場者に韓国・モンゴル・チベット・中国の文化や食べ物、民族衣装などを紹介したり、ゲル（モンゴルの簡易住居）の展示などを実施した。</p> <p>③「ふるさと自慢作文コンテスト」作文集翻訳 一昨年1,214点、昨年682点の応募作品の中から優秀作品20作品を選定し、数カ国語（韓国語・中国語・モンゴル語など）に翻訳した作文集を発行するための翻訳作業を昨年から継続して実施した。</p>
<p>(3) 『柏崎市・新潟産業大学・新潟工科大学連携協定』に基づく取り組み</p>	<p>平成23年度 大学・地域連携推進業務委託 受託（青柳 勸助手） 「稼働率から見たアクアパークと学校プールのあり方に関する研究」</p>
<p>(4) 柏崎市からの各種委員委嘱</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柏崎市行政改革推進委員会委員（山崎一輝教授） ・ 柏崎市公共事業再評価委員会委員（橋本次郎教授） ・ 柏崎市介護サービス事業者選定委員会委員（星野三喜夫教授） ・ 柏崎市福祉有償運送運営協議会委員（菊地愼二教授） ・ 柏崎市小学校社会科副読本監修委員（秋山正道教授） ・ 柏崎市人権教育・啓発基本計画策定委員会委員（秋山正道教授） ・ 柏崎市第四次総合計画後期基本計画策定市民会議委員（広川俊男学長） ・ 柏崎市元気なまちづくり事業補助金審査員（梅澤精教授） ・ 柏崎市公益通報等審査委員会委員（梅澤精教授） ・ 柏崎市情報公開・個人情報保護審査会委員（梅澤精教授） ・ 柏崎市男女共同参画審議会委員（梅比良眞史教授） ・ 柏崎市中越沖地震復興祈念事業実行委員会委員（詹秀娟教授） ・ 柏崎市職員倫理審査会委員（嵐田浩吉教授） ・ 柏崎市文化財保護審議会委員（片岡直樹教授） ・ 「かしわざき市民大学」企画運営委員（片岡直樹教授） ・ 柏崎市廃棄物減量等推進審議会委員（アハメド シヤハリアル准教授） ・ 柏崎市バイオマス利活用推進協議会委員（小出瑞康准教授） ・ 柏崎市奨学金貸付選考委員会委員（小林健彦准教授） ・ かしわざき健康みらいプロジェクト推進委員会委員（平野実良講師） ・ 柏崎市介護サービス事業者選定委員会委員（平野実良講師） ・ 柏崎市介護保険運営協議会委員（平野実良講師） ・ 柏崎市環境審議会委員（川本真哉講師） ・ 柏崎市都市計画審議会委員（渡邊孝一郎助教） ・ 柏崎市スポーツ振興審議会委員（青柳勸助手） ・ 「かしわざき市民大学」企画運営委員（川上繁雄教務係長）

(5) 水球のまち 柏崎への協力 体制	①ブルボンウォーターポロクラブ事務局への大学施設の賃貸。 ②青柳経済学部助手が同クラブの選手兼任監督。
---------------------------	--

6. 国際交流

事業項目	平成 23 年度実施内容
(1)地域における国際 交流	<p>①小中学校等への本学外国人留学生派遣事業 小中学校における総合学習や地域各種団体の行事などへ留学生を派遣し、母国文化紹介や相互交流を行った。</p> <p>②柏崎地域国際化協会関係事業 「国際スピーチコンテスト in 柏崎」を本学と協会が共催した。また協会主催の「地球市民キッズ・サマースクール」「語学教室(講師)」などに留学生を派遣し柏崎市民との交流や外国籍の市民へのサポート活動を行った。</p> <p>③企業への通訳等派遣 企業から依頼される通訳翻訳依頼に対し、本学留学生を派遣した。</p>
(2)海外学術交流協定 校との交流	<p>①短期留学生派遣 韓国高麗大学校へ2人が3週間、1人が半年間留学した。</p> <p>②短期留学生受入れ 中国黒竜江大学1人、中国ハルビン師範大学1人、中国集美大学3人、韓国慶一大学2人、合計7人の交換留学生を受け入れた。</p>

7. 附属図書館

事業項目	平成 23 年度実施内容									
(1)学習・教育・研究支援	学生及び教員の利用満足度が向上するよう、資料陳列・展示・レファレンス（資料相談）・閲覧室の環境づくりを行った。また、電子コンテンツ・視聴覚資料・雑誌等の非図書資料を充実させた。									
(2)資料の整理・整備・	蔵書数の増加にともない図書館の書棚が狭溢化しているため、書棚を数台、館内に増設した。開架図書の新陳代謝も図りながら、図書の整理を行った。また、教職課程や、郷土資料、資格取得、就職活動など、目的別に利用者を誘導できるよう、各コーナーを設けた。									
(3)資料の管理・保存	延滞者管理の徹底と蔵書点検を行い、資料の所蔵確認や不明本の抽出を行った。									
(4)学園祭参加	古本市の実施。学園祭に於いて、除却した本や雑誌のリサイクル市を実施し、安価で専門書を提供する企画が学生・教職員・一般来場者に好評を得た。									
(5)開館サービス状況	<p>①開館時間：月～金 9:00～19:00 長期休業期間 9:00～17:00</p> <p>②入館者数：28,801 人(H22 年度 33,427 人) ※4,626 人減</p> <p>① 資料提供サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出し冊数 : 2,586 冊（前年度から 110 冊減） ・貸出し延べ人数：1,205 人（前年度から 38 人減） [学生貸出数：763 人] ・他大学との相互協力による資料依頼・提供件数 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>文献複写</th> <th>相互貸借</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>依頼</td> <td>47</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>受付</td> <td>33</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>		文献複写	相互貸借	依頼	47	53	受付	33	14
	文献複写	相互貸借								
依頼	47	53								
受付	33	14								

8. 附属研究所

事業項目	平成 23 年度実施内容
(1)紀要の発行	<p>経済学部紀要第 39 号 を平成 23 年 6 月に発行した。</p> <p>執筆者 題 目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江口 潜 分業の「利益」と「痛み」：「制度」および「競争」の本質に関する一考察 第Ⅱ部：競争の本質と帰結 ・橋本 次郎 時系列モデルはどれだけ為替レート変動を予測できるか ・星野 三喜夫 「開かれた地域主義」と環太平洋連帯構想 ・小林 健彦 新潟県域に於ける謎の災害 ～古代から中世にかけて発生した巨大地震とその被害～

(2)競争的外部資金の獲得	<p>①平成23年度科学研究費補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川本真哉「企業統治とリストラクチャリング行動の“親和性”に関する実証分析」 910,000円 ・高橋真一「地域からみた日本の低出生力化(少子化)の研究」 1,170,000円 <p>②内田エネルギー科学振興財団助成金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アハメド シャハリアル「高齢者の肩関節可動域を拡張するための他動式運動機の試作」ーリアルタイム解析システムの開発ー 140,000円 ・小出瑞康 「縦渦励振駆動型マイクロ発電機開発のための水流中での円柱に作用する変動揚力」 110,000円 ・藤井信行「エネルギーと環境問題」および「カラー画像と視覚」他 150,000円
---------------	--

9. 施設開放

事業項目	平成23年度実施内容
(1) 施設開放については地域に広く利用を呼びかけ、地域に根ざす開かれた大学として、一層の施設開放を推進する。	<p>年間約7,500人の学外者の利用があった。 以下、施設別利用日数の集計結果。</p> <p>【開放施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①体育館 開放日数：延べ26日 ②グラウンド 開放日数：延べ37日 ③テニスコート 開放日数：延べ64日 ④講堂 8日 ⑤教室他 45日 ⑥駐車場 33日

10. スタッフ・ディベロップメント

事業項目	平成 23 年度実施内容				
「事務職員及び教務職員の業務研修」	学校法人柏専学院教職員の研修に関する規程」に基づき、下表のとおり学内SD研修会を実施するとともに、外部研修会に参加した。 <学内SD研修会>				
	実施日 8月23日 (火)	時間 13:15~	研修テーマ等 講演 テーマ：『キャリアカウンセリング及び適正検査に現れる若者の特徴』 講師：本学キャリアカウンセラーCDA 轟 新一郎 氏 グループワーク テーマ：『学生に自信を持たせる取り組みについて』 (教職員の対応、教育方法等)	参加数 21名	
	<学外SD研修会>				
	実施日 5月28日 (土)	時間 13:00~ 16:30	研修テーマ等 高等教育コンソーシアムにいがた連携事業 平成23年度第1回連携合同SD研修 テーマ：『学生相談員向け「発達障害に関する理解と学生対応について」大学組織における職員の役割を考える』 形式：事例発表、グループディスカッション	場所 長岡造形大学	参加数 3名
	7月1日(金) 7月2日(土) 8月25日(木) 9月26日(月) 10月21日(金) 11月25日(金) 12月14日(水)		ベティン・メソッドリーダーシップ研修 テーマ：「未来を創るリーダーシップ」 ~自発的に自らの持つ能力を使いたいと思えるように助け、その力を成功に向けて結集させる~	長岡商工会議所	1名
	9月16日 (金)	13:00~ 17:00	高等教育コンソーシアムにいがた連携事業 平成23年度第2回連携合同SD研修 ①テーマ：『発達障害の理解について』 形式：講演、グループディスカッション ②テーマ：『事業継続を考えたリスク管理について』 形式：講演、グループディスカッション	新潟国際情報大学	1名 1名
	11月30日 (水)	9:30~17:30	新潟大学スキルアップセミナー(管理職コース) テーマ：『ミシガン大学カッツ教授説 (管理職に求められるスキルについて)』 『マネジメント・ディメンション』 形式：講演、インバケット	と き め い と	1名
	12月1日 (木)	9:30~17:30	新潟大学スキルアップセミナー(リーダーコース) テーマ：『リーダー研修 ~部下指導スキルアップ~』 形式：討議、発表、ロールプレイング	と き め い と	1名
	2月25日 (土)	9:30~16:30	KASIX 社会人セミナー 「0JT リーダー研修(ビジネスコーチング)」	カ シ ッ ク ス	1名
	3月10日 (土)	9:30~16:30	KASIX 社会人セミナー 「問題解決研修(ロジカルシンキング)」	カ シ ッ ク ス	

11. その他

事業項目	平成 23 年度実施内容
(1) 東日本大震災復興支援	<p>①募金活動 新潟産業大学学友会、水球部、教職員が柏崎市街頭及び学内で募金活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柏崎市を通じて柏崎市に避難してきた被災者へ 587,672 円 ・ 柏崎商工会議所を通じて 24,925 円 ・ 特に交流のある東北地方の大学と高校 3 校へ 150,000 円 <p>新潟産業大学青年赤十字奉仕団が、柏崎市街頭で募金活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本赤十字社を通じて 67,956 円 <p>②学生ボランティア 6月13日から15日、柏崎市社会福祉協議会ボランティアセンターが募集する東日本大震災災害復興支援ボランティアに参加した。</p>
(2) 平成23年7月新潟県・福島県豪雨復旧支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月10日、十日町市での復旧作業（学生16人、職員3人） ・ 8月11日、三条市での復旧作業（学生13人、職員4人）

Ⅱ. 新潟産業大学 大学院 経済学研究科

1. 教育および研究指導の整備と質の確保にかかる事業

事業区分・項目	平成 23 年度実施内容
(1)教育課程の整備	①教育課程の編成の工夫 ・大学院カリキュラムに「コーポレート・ガバナンス特論」を開設した。 ・院生の研究者としてのステップアップを目的とした新設科目「英米経済学文献研究」を、より幅広い分野から学ぶことができるよう「経済学外書研究」に改正した。
(2)ファカルティ・ディベロップメント（FD）の推進	①大学院FD委員会の設置 『新潟産業大学大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会規程』を新設し、大学院のFD活動をより組織的に推進することとした。 ②教員相互の授業見学の実施 教員相互の授業見学を実施し、大学院FD委員会で評価し、教員にフィードバックした。 ③授業改善アンケートの実施 春学期末及び秋学期末の定期試験実施前に授業改善アンケートを実施し、結果を大学院FD委員会および院生にフィードバックした。また結果を学内 Web ページ上に公開した。
(3)研究指導体制の強化	複数教員指導体制の確立 「幅広いニーズに柔軟に対応した個別指導方式の確立」の目標を実現するため、指導教員に加え、学生の研究課題に関連する教員（副査）を院生および指導教員と相談のうえ決定し指導体制を確立した。
(4)大学院ガイドブックの作成	「大学院ガイドブック」を作成し、教育理念、教育目標、ミッション、3つのポリシー、大学院学則、研究指導体制、学位論文審査基準、修士論文の作成方法、大学院の修了要件、講義概要（シラバス）、履修方法、大学院行事予定を明記した。
(5)検定試験の受験義務化	E R E 経済学検定または経営学検定試験の受験を義務づけ、院生の経済学・経営学の習熟度を測定し、効果的な個別指導を実施した。
(6)講義概要（シラバス）の改善	講義概要（シラバス）掲載の到達目標や学修内容の記述を精査し、大学院のシラバスのすべてに成績評価基準の評価配分率を明記した。

2. 学習・研究支援環境の整備にかかる事業

事業項目	平成 23 年度実施内容
(1)基礎学力養成支援	全院生の経済学・経営学検定試験受験のために、受験料の支援を行った。
(2)院生指導室（院生コンピュータールーム）の見直し	コンピュータールームとしていた院生指導室の名称を「院生指導室」として統一し、大学院独自で管理していたコンピュータを、学部と同じネットワークによる管理に変更した。これにより利用環境を一元化し、利便性が向上した。

3. 国際交流

事業項目	平成 23 年度実施内容
(1)国際交流の基本方針の明確化	国際交流の基本方針の一環として中国の大学院との学術交流を掲げた。

Ⅲ. 新潟産業大学附属高等学校

1. 平成23年度の「教育等の事業」の概要

前年度までの部活動での活躍や大学進学実績をさらに高めるために、今年度も「部活で燃えろ！進路で輝け！」をスローガンに掲げ、少子化に伴う適齢人口の減少や、教育の多様化、個性化に対応し、地域に信頼され、期待される新潟産業大学附属高等学校を目指すために、募集活動や広報活動で当校の特色・魅力や教育成果などを、地域に深く理解していただけるよう努力してきた。

2. 平成23年度実績

(1) 部活動実績（全国レベルに挑戦）

①県高等学校総合体育大会に121名（昨年度105名）が出場し、13名が優勝を果たした。（昨年度6名）

特に、卓球部は女子学校対抗戦、女子シングルス、女子ダブルスで完全優勝を果たした。

②北信越高等学校体育大会に44名（昨年度28名）が出場した。

卓球部は、女子学校対抗戦で優勝、女子シングルスで3位、女子ダブルスで3位、男子シングルスでベスト16と実力を発揮した。陸上競技部は、女子400mハードル出場、男子400mハードルでは6位に入賞、インターハイ出場権を獲得した。水泳部は女子400m自由形で優勝、女子200m自由形で3位、男子100m自由形、男子200m背泳ぎ、女子800m自由形、女子200mバタフライ、女子400mリレー出場と活躍した。

③北信越高等学校選抜卓球選手権大会では、女子は学校対抗で第3位入賞を果たした。

④全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に21名（昨年度20名）が出場した。

卓球部は、男子シングルスに出場、女子学校対抗戦でベスト16、女子シングルス出場、女子ダブルスで第5位に入賞を果たし、その実力を発揮した。

水泳部は女子200m自由形に出場、女子400m自由形では6位に入賞し、活躍した。陸上競技部は、男子400mハードルに出場した。

⑤第66回国民体育大会山口大会県代表選手に、卓球競技、ゴルフ競技、水泳競技の計7名（昨年度7名）が出場した。卓球部は、少年女子で第5位入賞を果たした。

(2) 進学実績（大学・短期大学進学率52.5%、専修学校20.8%）

※昨年度大学・短期大学進学率54.8%、専修学校12.9%

①4年制大学進学率、地域6校の中で3番（2番校に接戦）。（中等教育学校を除く）

②夏期特進講座・冬期特進講座・サマーゼミ（2泊3日の学習合宿）・春期特進講座は前年度と同様に計画・実施した。

サマーゼミは、昨年同様1、2年生を対象に妙高高原にて実施した。

③大学進学プログラム（7、8限、毎週土曜）

水曜日を除く、月曜日から金曜日までの8限と水曜日の7、8限及び土曜日1～3限を利用し、大学進学に必要な受験指導をしてきた。

④高大連携教育（ブリッジプログラム）の実施

週2単位のステップアップ科目と基礎中国語の授業や1年のフレッシュマンセミナー、

大学説明会（産大体験授業）、2年生の進路講演会、3年生の大学進学説明会等、附属高校独自のキャリア教育も大学側の多大な協力により予定どおり実施することができた。

3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ

(1) 教育目標と教育方針

【教育目標】

1. 人生観の指導と自信のある生活態度の育成
2. 学習意欲と能力の向上
3. 自律自治と社会連帯の精神涵養

【教育方針】

生徒一人ひとりを大切にすることを基本に据え、部活で燃えろ！進路で輝け！を合言葉に、全国に名高い部活動・進学校を目指す。

(2) 生徒への支援

【教務部】

《今年度の重点事項》

- ①平成24年度新教育課程についての具体的な実施の検討
- ②基礎学力の確立と授業規律と学習姿勢の向上
- ③家庭学習の習慣づけの工夫
- ④考查週間、定期考查、再考查、補習についての検討
- ⑤授業時数確保と長期休業の有効利用
- ⑥進路指導部との連携による統一した進学指導と体制の強化
- ⑦朝読書・朝テストの実施

《具体的な取り組み》

- ①期限付きキャンペーン（各学期始めに出席率調査、各定期考查前にベル着席調査）を1～2週間で実施した。
- ②各定期考查前に考查週間を設定し、考查準備を徹底させる。考查後に再考查の期間を設け、赤点対象者を絞り込んだ。夏季休業中、冬季休業中、学年末にそれぞれ補習授業を行い、赤点の学期毎の解消を徹底した。
- ③各コース毎に授業時数を集計し、定期的に点検し、当初の計画通りの授業時数を確保した。長期休業毎に「特進講座」を1週間実施し、進学希望者の学力増進を図った。
- ④大学進学プログラムや放課後の自主学習を進路指導部と協力し、生徒の学習状況を点検し、適切な助言をしながら、希望進路の達成を支援した。
- ⑤指導要録電子化の点検・管理を行う責任者を各学年に1名ずつ配置し、教務部と協力して業務にあたった。

《結果》

- ①「授業規律向上の取り組み」や「期限つきキャンペーン」により、学習意欲や授業態度に改善が見られた。
- ②基礎学力養成を視野に入れた授業展開を行うことにより、学習遅進者が減少した。

- ③進路指導部と連携した進路指導および学習指導を行ったため、概ね進路希望を達成できた。
- ④総授業時数は確保できたが、教科・科目によるばらつきがあった。次年度は教科・科目別の時数の適正化を図りたい。
- ⑤教務部会、教科会議において、成績評価、授業研究、生徒の情報交換などについて積極的な会議が行われた。
- ⑥指導要録の電子化を実施しているが、おおきなトラブルもなく、適切に処理された。

【生徒指導部】

《今年度の重点事項》

- ①規律ある生活態度の育成、社会のルールやマナーの理解・実践
- ②生徒が授業や部活動、行事に主体的に参加するための援助
- ③制服の正しい着用

《具体的な取り組み》

- ①基本的生活習慣の確立（欠席・遅刻・早退の防止）と中途退学者の防止
保護者からの連絡、届出を徹底させ、連絡がない場合には保護者に確認をした。不登校の生徒については、学校全体で共有した情報を持って丁寧に指導し、中途退学者を減らす努力をした。
- ②校内規律の確立（制服・頭髪・化粧・言葉遣い）と社会のルールの遵守
制服・頭髪については定期的に各学年で検査を実施し、改善させた。化粧をした場合は、直ちに改善させた。
- ③学業に不必要な物品持ち込み禁止のキャンペーンと指導
ゲーム機、音楽プレーヤー、カード類、雑誌類、化粧品、装飾品等の持ち込みを厳しく禁止した。
- ④立哨指導、巡視指導
生徒玄関での生徒指導部を中心とした立哨指導。教師による当番制での安田駅での乗降車、マナー指導を実施した。
- ⑤長期休業の事前指導
夏季・冬季・春季休業中の生活について生徒に文書を配布し、学年集会、各HRで事前指導を実施した。
保護者にも文書を配布し、期末PTAで協力をお願いした。
- ⑥生徒会主催の県総体激励会、インターハイ・北信越・野球部激励会の実施
- ⑦月間毎の「正しい制服の着用強化月間」のキャンペーンと指導
腰パン禁止、シャツ出し禁止、ネクタイの正しい着用等月毎に取り組みを実施し、改善されない場合学年会面接、生徒指導部長面接、教頭・副校長面接と段階的に指導をした。

《結果》

- ①無断欠席、無断早退がなく、生徒の所在が確認できた。不登校生徒は家庭訪問で状況把握ができた。
- ②頭髪の改善については、保護者に連絡し協力を得られた。高校生らしい清楚な容姿になってきた。
- ③授業姿勢、雰囲気向上し生徒、教師共に相乗効果があった。
- ④挨拶指導、服装指導に効果があった。安田駅の乗降車、マナー指導は社会のルール遵守

に効果があった。

- ⑤長期休業中は事故・事件がなかった。
- ⑥北信越大会、インターハイ、国体に多くの生徒が出場し、入賞を果たした。
- ⑦正しい制服の着用については、段階的な指導を実施した。生徒はルール遵守の重要性が理解できた。

【進路指導部】

《今年度の重点事項》

- ・学習する雰囲気高め、基礎基本を重視すると共に、全般的な学力向上に努力する。
 - ・進学指導を強化し、大学進学率を高める。
 - ・進路指導が学年毎に、段階的、系統的に行われるように次の指導方針を置く。
- 1年：意欲を持たせ、自分の理想とする生き方や将来の方向、職業を考える。
高校生活への適応を図り、将来の進路について具体的な目標を追求する。
- 2年：自分の興味・関心・能力を客観的につかむ。
高校生活への充実を図り、適切な進路選択のため、自己理解を深めさせる。
- 3年：社会的自己実現のため、適切に進路を決定させ、目標達成のため、努力させる。自分の興味・適性・能力と進路情報を考え合わせ、進路を考えさせる。

《具体的な取り組み》

- ①進路の手引きの作成や、進路希望調査を実施した。
- ②進路指導室については、生徒が利用しやすいスペース作りや資料の蓄積と整理をした。
また、センター試験、就職試験への激励を実施した。
- ③就職希望者の全員内定を目指し、「就職試験対策ゼミ」「ハローワーク相談室」「就職ガイダンスⅠ」「就職ガイダンスⅡ」「4者面談」等を実施した。
- ④カレッジコースの卒業時までの継続した進路指導として、センター試験説明会を学期毎に実施した。
- ⑤大学進学者の増加策として、学年毎の進学指導を強化し、国公立大学への推薦選抜入試の指導やラーナーズクラブ（勉強部）を創設して大学進学者数の底上げを図った。
- ⑥教務部とタイアップして、大学進学プログラム・サマーゼミ等を充実させ、校内予備校の導入に向けた取り組みを図った。
- ⑦履歴書に書ける特技や資格を身に付けさせる目的から、各種資格の取得を奨励した。
- ⑧積極的な求人先の開拓を目指し、企業訪問をした。
- ⑨社会人としての心得についての指導を目的に、社会人準備セミナーを実施した。
- ⑩広報とリンクし、「部活で燃えろ進路で輝け」及び「部活で燃えろ進路で輝け地域版」を地域（上越、長岡を含む）に配布した。
- ⑪新たな大学の指定校枠の開拓を目指した。

《結果》

- ①進路の手引きを作成し、全校生徒・保護者に配布した。進路意識調査は学期毎に実施したが、全体的には教師側の指導もあり、進学志向が高まってきている。
- ②進路指導室については、進学や就職の情報収集・面接練習或いはセンター試験受験の勉強スペースとして利用する生徒が多かった。センター試験激励会を実施した。試験前日は校内で、試験当日は会場にて、校長を始め保護者も参加して、他校よりも盛大に受験生の激励を行うことができた。就職試験激励会についても、校長の激励と就職内定祈願

を受け、試験本番に臨むことができた。

- ③就職試験対策ゼミを開催し、「クレペリン検査」「作文」「一般常識」等就職試験に向けた指導を行い、事前学習・事前準備を促すことができた。ハローワーク相談室では、校内で職安職員より就職応募に向けた指導を受けた。また、就職ガイダンスⅠにおいては、就職試験までの流れや就職試験の厳しさ、或いは進学への方向転換等を含めて説明をし、気を引き締めることができた。更に厚生労働省主催による就職ガイダンスⅡでは、職業指導員から面接の受け方や就職への心構え等の指導を受け、実践力を身につけることができた。未内定者については、保護者、生徒、担任、進路指導部の4者で将来についての方向を探りながら、ハローワークに出向き、面談等の指導を重ね希望者全員が内定することができた。
- ④2、3年生カレッジコースを対象としてセンター試験説明会を実施した。内容としては「センター試験受験の意義」や「出願書類の書き方」等を指導した。
- ⑤進学意識を高める為と「高・大連携教育」の実践的な取り組みの一環として、1年生を対象として「フレッシュマンセミナーや産大体験授業（5分野に分かれて授業）を実施し、大学生活の一端を体験することができた。2年生では「新潟大学見学会」や「進路ガイダンス」3年生では「進学説明会」等を実施した。また、産業大学の教室を借用して、センター試験対策ゼミを実施した。3年生17名が参加し、自学自習の習慣づけと学力向上に努めることができた。国公立大学の推薦選抜入試にも複数の生徒をチャレンジさせ、2名の合格者を出すことができた。更にラーナーズクラブ（勉強部）を創設して将来的な大学進学者数の底上げを図っている。
- ⑥サマーゼミ（学習合宿）を妙高高原で実施した。カレッジコース1年24名、2年20名が参加し、学習習慣と効率的な学習法を身に付けることができた。また、校内予備校説明会を開催した。保護者5名、生徒46名が説明会に参加し、ブロードバンド予備校からの説明を受け、新年度より導入を図る運びとなった
- ⑦就職希望者を対象として手話講座を開催し、柏崎市職員の方から指導を受けた。基本的な部分ではあるが、受講者には特技の1つとして体得させることができた。また、資格取得を奨励・指導した。柏崎労働基準協会によるクレーン資格講習で5名、アーク溶接資格講習で6名が資格を取得できた。
- ⑧企業訪問を実施した。就業生徒の職場への定着指導や今後の求人開拓に結び付く感触も得ることができた。
- ⑨就職希望者を対象として、社会人準備セミナーを実施した。「社会でのマナー」について、にいがたキャリアサポーター講師より講演を受け、社会人としての緊張感をもたせることができた。
- ⑩進路指導ニュース「部活で燃えろ進路で輝け」の発行により、生徒に対しては進路に対する意識付けと自信を持たせ、地域に対しては本校をPRする活動の一助にもなり「生徒募集」に役立てることができた。
- ⑪生徒のニーズに合わせた分野を有する新たな大学の指定校枠を積極的に開拓した。日本歯科大学、玉川大学等の新規学部に加え、日本大学、城西大学等の新規学科への推薦枠を得ることができた。

4. 生徒募集

(1) 中学校訪問の強化（長岡・上越地域の生徒の増加のために）

第1回、2回、4回での中学校訪問は、午後から授業のない考查期間中に実施、第4

回は訪問者の授業時間割を考慮し、訪問日を分散させた。

第1回中学校訪問（広報活動、情報収集）7月7日（木）

柏崎、長岡、魚沼、十日町、上越、三条 70校（昨年度70校）

第2回中学校訪問（生徒募集並びに広報活動、学校見学会案内）10月12日（水）

長岡、魚沼、十日町、小千谷、上越、三条 50校（昨年度51校）

第3回中学校訪問

（推薦・一次入試に向けて、中学校の出願状況、情報収集及び募集活動）

12月2日（金）、5日（月）、7日（水）、8日（木）

柏崎、長岡、魚沼、十日町、小千谷、上越、三条 70校（昨年度70校）

第4回中学校訪問（二次入試に向けて）2月3日（金）2月7日（火）

柏崎、長岡、小千谷、上越 57校（昨年度58校）

（2）高校説明会（中学校からの依頼参加）

<柏崎・刈羽地区（11校）11回>

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ① 6月17日（金）柏崎市立東中学校 | ⑦ 6月24日（金）柏崎市立第五中学校 |
| ② 6月21日（火）柏崎市立鏡が沖中学校 | ⑧ 6月24日（金）柏崎市立瑞穂中学校 |
| ③ 6月22日（水）刈羽村立刈羽中学校 | ⑨ 6月27日（月）柏崎市立南中学校 |
| ④ 6月23日（木）柏崎市立西山中学校 | ⑩ 7月8日（金）柏崎市立高柳中学校 |
| ⑤ 6月23日（木）柏崎市立第一中学校 | ⑪ 9月8日（木）柏崎市立北条中学校 |
| ⑥ 6月24日（金）柏崎市立第二中学校 | |

<長岡地区（6校）6回>

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ① 6月23日（木）長岡市立東北中学校 | ④ 7月12日（火）長岡市立寺泊中学校 |
| ② 6月24日（金）長岡市立青葉台中学校 | ⑤ 9月16日（金）長岡市立越路中学校 |
| ③ 6月24日（金）長岡市立三島中学校 | ⑥ 9月27日（火）長岡市立大島中学校 |

<小千谷地区（1校）1回>

- ① 7月20日（水）小千谷市立東小千谷中学校

<上越地区（9校）9回>

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ① 6月21日（火）上越市立八千穂中学校 | ⑥ 7月12日（火）上越市立春日中学校 |
| ② 6月21日（火）上越市立城北中学校 | ⑦ 7月15日（金）上越市立頸城中学校 |
| ③ 6月23日（木）上越市立直江津中学校 | ⑧ 9月17日（土）上越市立直江津東中学校 |
| ④ 7月8日（金）上越市立城東中学校 | ⑨ 9月29日（木）上越市立柿崎中学校 |
| ⑤ 7月8日（金）上越市立板倉中学校 | |

<糸魚川地区（1校）1回>

- ① 7月1日（金）糸魚川市立糸魚川中学校

<十日町地区（1校）1回>

- ① 7月13日（水）十日町市立南中学校

（3）中学校教師対象入試説明会

9月26日（月） 20校 20名（平成22年度20校 20名参加）

柏崎市立第一中学校、第二中学校、第三中学校、鏡が沖中学校、瑞穂中学校、松浜中学校、東中学校、第五中学校、高柳中学校、西山中学校、刈羽村立刈羽中学校、出雲崎町立出雲崎中学校、長岡市立宮内中学校、西中学校、青葉台中学校、越路中学校、小国中学校、小千谷市立千田中学校、見附市立今町中学校、新発田市立紫雲寺中学校

(4) 学校見学会 (オープンスクール)

第1回学校見学会 7月16日(土) (授業・部活動体験)

87名 (昨年度 48名)

第2回学校見学会 10月19日(水) (授業・部活動体験、産附弁当配付)

155名 (昨年度 97名)

(参考) 平成15年 50名、平成16年 86名、平成17年 56名、
平成18年 76名、平成19年 90名、平成20年 168名、
平成21年 170名、平成22年度 145名
平成23年度 242名

※学校見学会には、予想を超える中学生の参加があり、授業や部活動の見学・体験から、志願者の増加につながった。

(5) 募集結果

学科	募集学級	募集定員	区分	志願	受験	合格	入学 手続	入学 許可
普通	4	160	専推	61	61	57	57	57
			スポーツ					
			一般	102	102	83	83	83
			併願推薦	323	323	323	32	32
			計	486	486	463	172	172

5. 新規取組事項

- (1) 卓球部、陸上競技部、ゴルフ部が県の事業である「魅力ある私立高校づくり支援事業」の指定を受け、原則3年間事業に取り組むことになった。
当事業で卓球部には国際規格の卓球台7台が購入され、ゴルフ部はプログリーンが整備された。
- (2) 第2体育館ギャラリーにトレーニング場が新設された。
- (3) 江蘇省教育旅行モニター事業で中国の高校生15名、教員5名、県内関係者4名が来校し、本校生徒と交流が行われた。
- (4) 当校の教育活動内容を広く浸透させるために広告等掲載を強化し、柏崎地区は、「柏崎情報パーク」、上中越地区は、新潟日報上中越版等にそれぞれ掲載した。
- (5) 柏崎・刈羽地区中心に、『部活に燃えろ！進路で輝け！』という広報紙を各家庭に配布した。
- (6) ホームページから受験書類等の一部をダウンロードできるように対応した。
- (7) 野球部、サッカー部、ゴルフ部の顧問を1名増加させ、野球部には外部コーチを導入した。
- (8) ラーナーズクラブ(勉強部)を創設した。

3部 財務の概要

資金収支計算書

平成23年4月 1日から
平成24年3月31日まで

学校法人 柏専学院

(単位 円)

収入の部				
科目	科目の主な内容	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	入学金、授業料等の納付金	615,900,000	615,792,752	107,248
手数料収入	入学検定料、証明手数料など	7,727,000	7,863,100	△ 136,100
寄付金収入	本法人に対する寄付金、 但し現物寄付は除く	1,770,000	1,783,930	△ 13,930
補助金収入	国、地方公共団体などから 交付される補助金	383,458,000	381,956,985	1,501,015
国庫補助金収入	国などからの補助金	(193,689,000)	(193,055,464)	(633,536)
地方公共団体補助金収入	県などからの補助金	(189,769,000)	(188,901,521)	(867,479)
資産運用収入	預金・有価証券等の利息	3,718,000	3,514,208	203,792
資産売却収入	有価証券等の売却	800,700,000	800,721,587	△ 21,587
事業収入	学生寮の寮費、公開講座・ 受託事業収入等	32,208,000	32,310,700	△ 102,700
雑収入	上記以外の収入	52,701,000	54,643,536	△ 1,942,536
前受金収入	平成24年度入学生にかかる 納付金など	53,389,000	62,056,400	△ 8,667,400
その他の収入	本法人に帰属しない収入	126,636,407	80,191,968	46,444,439
資金収入調整勘定	当年度の収入と現預金等の 整合を保つための調整勘定	△ 97,320,979	△ 101,853,391	4,532,412
前年度繰越支払資金	平成22年度から繰り越された 現預金	848,931,487	848,931,487	
収入の部合計		2,829,817,915	2,787,913,262	41,904,653
支出の部				
科目	科目の主な内容	予算	決算	差異
人件費支出	教職員、役員等の給与・手当	743,492,000	744,218,629	△ 726,629
教育研究経費支出	教育研究のために要した経費	271,025,000	260,160,624	10,864,376
管理経費支出	教育研究経費以外の経費	120,933,000	117,419,407	3,513,593
借入金等利息支出	借入金の返済利息	0	0	0
借入金等返済支出	借入金の返済金	0	0	0
施設関係支出	建物、構築物	9,596,000	9,595,607	393
設備関係支出	備品、図書	12,297,000	10,831,806	1,465,194
資産運用支出	有価証券等の購入 特定預金への支出	524,283,000	523,112,379	1,170,621
その他の支出	上記以外の支出	78,764,934	24,810,225	53,954,709
〔 予 備 費 〕	当年度の予備費使用額	(0)		
	当年度の予備費の未使用額	19,200,000		19,200,000
資金支出調整勘定	当年度の支出と現預金等の 整合を保つための調整勘定	△ 43,349,640	△ 46,927,723	3,578,083
次年度繰越支払資金	平成24年度へ繰り越し現預金	1,093,576,621	1,144,692,308	△ 51,115,687
支出の部合計		2,829,817,915	2,787,913,262	41,904,653

消費収支計算書

平成23年4月 1日から
平成24年3月31日まで

学校法人 柏専学院

(単位 円)

消費収入の部				
科 目	科目の主な内容	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	入学金、授業料等の納付金	615,900,000	615,792,752	107,248
手 数 料	入学検定料、証明手数料など	7,727,000	7,863,100	△ 136,100
寄 付 金	本法人に対する寄付金、 現物寄付を含む	2,204,000	2,360,350	△ 156,350
補 助 金	国、地方公共団体などから 交付される補助金	383,458,000	381,956,985	1,501,015
国庫補助金	国などからの補助金	(193,689,000)	(193,055,464)	(633,536)
地方公共団体補助金	県などからの補助金	(189,769,000)	(188,901,521)	(867,479)
資 産 運 用 収 入	預金・有価証券等の利息	3,718,000	3,514,208	203,792
資 産 売 却 差 額	資金収支の資産売却収入から 売却資産の簿価を引いた差額	600,000	616,323	△ 16,323
事 業 収 入	学生寮の寮費、公開講座・ 受託事業収入等	32,208,000	32,310,700	△ 102,700
雑 収 入	上記以外の本法人への消費収 入	58,591,000	60,530,179	△ 1,939,179
帰 属 収 入 合 計	本法人の純財産を増加させる 収入の合計	1,104,406,000	1,104,944,597	△ 538,597
基 本 金 組 入 額 合 計	教育に欠かせない資産を取得 した場合に組み入れする額	0	0	0
消費収入の部合計		1,104,406,000	1,104,944,597	△ 538,597
消費支出の部				
科 目	科目の主な内容	予 算	決 算	差 異
人 件 費	教職員、役員等の給与・手当と 退職給与引当金の組入額	766,351,000	765,271,852	1,079,148
教 育 研 究 経 費	教育研究のために要した経費 (減価償却額を含む)	378,025,000	363,305,975	14,719,025
管 理 経 費	教育研究経費以外の経費 (減価償却費を含む)	133,533,000	129,013,824	4,519,176
資 産 処 分 差 額	備品、図書を処分にかかる帳簿 価額との差額	7,500,000	6,678,354	821,646
徴 収 不 能 額	未収入金等で当期において回収 不能と判断した額	0	2,500,000	△ 2,500,000
[予 備 費]	当年度の予備費使用額 (消費収支上の予備費) 当年度の予備費の未使用額 (消費収支上の予備費)	(0) 18,200,000	/	18,200,000
消費支出の部合計		1,303,609,000	1,266,770,005	36,838,995
当 年 度 消 費 収 支 差 額	当年度の収支差額 [消費収入の部]-[消費支出の部]	△ 199,203,000	△ 161,825,408	/
前 年 度 繰 越 消 費 収 支 差 額	平成22年度からの繰り越された 消費収支差額	△ 1,734,078,262	△ 1,734,078,262	/
基 本 金 取 崩 額	基本金の取り崩し額	20,173,000	28,342,023	/
翌 年 度 繰 越 消 費 収 支 差 額	平成24年度へ繰り越される 消費収支差額	△ 1,913,108,262	△ 1,867,561,647	/